

令和5年度 藤沢総合高等学校 学校評価報告書（目標設定）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
教育課程学習指導	<p>①生徒の学習意欲を高め、進路実現を図るセメスター制の教育課程編成と組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②課題研究等を見直し、課題解決力や表現力を高める探究活動を充実を図る。</p>	<p>①1) 効果的・効率的な履修指導体制を作り、生徒のニーズに合う教育課程を編成する。カリキュラムの枠組みを検証する。</p> <p>①2) 共通テーマに基づいた授業研究を組織的に行う。主体的・対話的で深い学びを実現する。全ての講座で1人1台端末を活用した授業を充実させる。</p> <p>②課題研究の取組みについて、現状分析し、内容等の充実・改善を行う。</p> <p>③総合学科の強みを活かしたシチズンシップ教育研究を進め、生徒の学びを充実させる。</p>	<p>①1) 年次進行型セメスター制教育課程の弾力的な運用、55分授業の実施形態の変更検討を行う。</p> <p>①2) 共通テーマに基づく公開研究授業・授業見学会を実施し、主体的・対話的で深い学びを実現する。事例を共有し、端末を活用した授業を学校全体で充実させる。</p> <p>②次の10年を見据え、課題研究の改善を検討する（研究テーマ設定の手順等、情報収集）。上級学校等の外部資源を積極的に活用する。</p> <p>③「産業社会と人間」の授業で外部の教育力を活用したシチズンシップ教育を行う。</p>	<p>①1) 年次進行型セメスター制の弾力的な運用形態、今後の日課表について検討することができたか。</p> <p>①2) 公開研究授業に50名以上の職員が参加できたか。授業見学会に全ての職員が前期・後期あわせて2回参加できたか（のべ人数）。端末を活用した授業を拡充することができたか。</p> <p>②今後の課題研究について検討し、改善策を示すことができたか。外部資源の活用を増やすことができたか。</p> <p>③外部の教育力を活用し、研究2年目の成果が得られたか。</p>
生徒指導・支援	<p>①部活動を活性化させ、生徒の責任感や協働力の涵養を図る。</p> <p>②専門家と連携し、生徒の社会的自立を促す、きめ細やかな生徒指導・支援の充実を図る。</p>	<p>①部活動・生徒会本部・委員会活動、学校行事を通じて生徒が活躍する機会を広げ、自ら考え行動できる生徒を育成する。</p> <p>②組織的な教育相談・指導体制を整え、生徒の安全安心な学校生活を実現する。自らを律し、互いに尊重し合える生徒を育成する。</p> <p>③外国につながるのがある生徒に対する魅力的で効果のある支援プログラムを構築する。</p>	<p>①新入生や入学希望者への部活動紹介等、学校内外への情報発信を工夫する。生徒会本部役員中心に部活動・委員会等を活用しながら地域と連携した学校行事を運営する。</p> <p>②SC・SSWと教育相談コーディネーターとの情報交換をより密に行う。1人1台端末を活かし、「かながわ子どもサポートドック」を効果的に運用する。</p> <p>③通常の授業、翡翠祭や学校説明会等への外国につながるのがある生徒の参加の機会を増やす。放課後学習支援の内容等を充実させる。</p>	<p>①部活動の入部率・定着率を上げることができたか。学校内外へ新たな方策を含め積極的な情報発信ができたか。地域と連携した学校行事を実施することができたか。</p> <p>②緊密な情報交換、定期的な課題整理、共通理解により、生徒の安全安心な学校生活を実現することができたか。「かながわ子どもサポートドック」の効果的な運用ができたか。</p> <p>③各取組の参加者ののべ人数を増やすことができたか。放課後学習支援の取組を充実させることができたか。</p>
進路指導・支援	<p>生徒が主体的に進路を考え、実現に向けて必要な能力や態度を育む指導・支援の充実を図る。</p>	<p>①「産業社会と人間」の新プログラムを円滑に推進し、持続可能な取組みとするための検証・改善を行う。</p> <p>②外国につながるのがある生徒の進路保障のための支援プログラムを整備する。現在の進路支援の取組み全体の検証・充実に取り組む。</p>	<p>①実施後、評価を行い、内容・推進体制等をブラッシュアップする。</p> <p>②外国につながるのがある生徒の進路支援について、卒業年次に向けた具体的取組を行う。進路状況や生徒の客観的学力について、情報提供する。</p>	<p>①キャリア教育の視点から新プログラムの成果・課題を検証し、次年度への改善につなげることができたか。</p> <p>②外国につながるのがある生徒を対象とした具体的資料等を作成することができたか。外部ツールや学校情報を進路決定に活用することができたか。</p>
地域との協働	<p>地域との交流や協働を深め、信頼され開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>①地域組織・行政とのつながりを活かし、地域への貢献を進める。地域人材・資源を活用した授業等を充実させる。</p> <p>②中学生に選ばれる学校であり続けるため、総合学科高校の魅力・特色についての情報発信を工夫し、広報活動を積極的に展開する。</p>	<p>①生徒の地域行事・ボランティア活動への参加、地域人材・資源を活用した授業等を広げ、総合学科の学びをさらに充実させる。</p> <p>②広報活動の充実に資する新たなアンケートを実施する。総合学科の魅力・特色を強く発信するため、HP・説明会を一層充実させる。</p>	<p>①地域への貢献、授業等での地域人材・資源の活用を拡充させることができたか。</p> <p>②新たなアンケートを実施することができたか（新入生・卒業年次）。HPの週1度以上の更新、HP・学校説明会を改善・充実することができたか。</p>
学校管理 学校運営	<p>職員の教育力や事故・不祥事防止に係る取組を効果的に実施し、協働意欲と組織力の向上を図る。</p> <p>働き方改革を推進するための職員の意識改革を図る。</p>	<p>①防災・防犯計画の点検・見直しを行い、生徒のいのちを守る意識を高める。</p> <p>②職場の心理的安全性を高め、事故・不祥事ゼロを実現し、協働的で働きがいのある職場を作る。</p> <p>③職員提案を活用した上で、教員の働き方改革を進める。</p>	<p>①防災や危機管理マニュアルの点検及び周知を行い、より実践的な防災訓練やDIG研修を行う。</p> <p>②心理的に安全な職場を作るため、考え方、具体的な方策等を職員に理解させる。</p> <p>③職員提案の仕組み、勤務時間管理システムを活用しながら、教員の働き方改革につなげる。</p>	<p>①防災教育を充実させることができたか。生徒・教員の評価を通して生徒の防災意識を向上させることができたか。</p> <p>②職場の心理的安全性を高めることができたか。月1回以上の研修・情報提供ができたか（アンケート・自己評価）。</p> <p>③職員提案の仕組みを運用することができたか、働き方改革が進んだか。</p>